

青少年における「疼痛又は運動障害を中心とする多様な症状」の
受療状況に関する全国疫学調査（一次調査）

下記の基準を満たす患者が、過去6ヵ月間（2015年7月1日～12月31日）に貴診療科を受診したか（受診「あり」の場合は、年齢別患者数）について、同封のはがきでご報告をお願いいたします。

▶ 調査対象症例基準：①～④のすべてを満たす

-
- ① 12～18歳（2015年7月1日～12月31日受診時点の満年齢）
- ② 以下の症状*が少なくとも1つ以上ある
- 疼痛および感覚（光・音・におい）の障害
 - 運動障害
 - 自律神経症状
 - 認知機能障害
- ③ ②の症状が、3ヵ月以上*持続している
- ④ ②及び③のため、通学・就労に影響がある*
-

* 具体例や目安など、補足事項については裏面をご参照ください。

- 性別、過去のHPVワクチン接種歴にかかわらず、ご報告をお願いいたします。
- カンファレンス等の時間を利用し、貴科の所属医師全員に、過去6ヵ月間の診療経験をお尋ねいただけましたら幸いです。
（本研究の重要性をご理解いただき、何卒宜しくお願い申し上げます）
- 本調査（一次調査）へのご回答は、先生方の記憶に基づいたものでも構いません。
（診療録を確認していただくことは、必ずしも必要ではございません）
- 受診患者「あり」の場合は、後日、二次調査として個人票をお送りいたします。
あわせてご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

調査対象症例基準 補足事項

② 症状の具体例

- 疼痛および感覚（光・音・におい）の障害
痛み：関節痛、筋肉痛、腰痛、頭痛、腹痛、全身の痛みなど
しびれ感：四肢、顔面、体幹など
その他：感覚脱失、光・音・においに対する過敏（例：サングラスやヘッドホンをつけて過ごす、シャンプーのにおいがひどく気になる）など
- 運動障害
起立障害、歩行障害、振戦、握力の低下、麻痺、脱力、けいれんなど
- 自律神経症状
めまい、倦怠感、失神、冷汗、手汗、微熱、立ち眩み、耳鳴り、吐気、嘔吐、下痢、昼夜の逆転、体温の異常、食欲の増減（およびそれに見合わない体重の増減）など
- 認知機能障害
記銘力の低下、学習能力の低下、集中力の低下など
（例：暗算が不得手になった、漢字を書けなくなった、本を読むスピードが遅くなった、クラスメイトの名前を聞いても顔が思い出せない）

③ 症状の持続

- 複数の症状が移り変わって出現している場合、「全体として」3ヵ月以上持続しているかで判断ください。

（例：疼痛が2ヵ月程度出現、その後、疼痛は消失したが運動障害が1ヵ月程度出現
⇒ 「全体として3ヵ月以上持続」と判断）

④ 通学・就労に「影響がある」と考える目安（以下の例をご参考にご判断ください）

〔例〕1週間以上連続しての欠席もしくは欠勤

〔例〕学校や仕事での生活において、活動能力の低下が明らかである

（体育の見学、頻繁に保健室で過ごす、成績の明らかな低下、以前できていた作業ができなくなった）